

# 奥日野のたたら歴史に

## ヒカリを当てよう！

### 伯耆国たたら顕彰会の軌跡

奥日野でかつて栄えた「たたら製鉄」と「たたら文化」を地域資源としてまちづくり活動に取り組んでいる、伯耆国たたら顕彰会（田貝英雄会長）その取り組みを紹介します。 文：すぎはらみきを 監修：伯耆国たたら顕彰会

●奥日野における「たたら歴史」顕彰活動は、始まってからまだ10年。平成20年に、日野町・日南町商工会が「たたら」をテーマとして地域振興を図ろうと、経

済産業省の事業に取り組んだことがきっかけでした。事業では平成22年3月にかけて2回の「たたらシンポジウム」を開催し、ガイダンス施設「たたら楽校」

を日野町根雨と日南町大宮に開設。それまで地域内ではほとんど語られることなかった「たたら」に対する見識が、以来少しずつ広まり、深まってきました。

●商工会の事業を引き継ぎ、「伯耆国たたら顕彰会」を平成22年6月に設立。米子市在住の作家、松本薫さんの執筆による小説『TATARA』を発売。それに至る3ヶ月間の、会員による熱心な予約獲得活動が大きな呼び水になり（約1200冊の予約を獲得）、また内容の面白さ・素晴らしさもあつて3500冊以上を売り上げ、日野のみならず米子市でも「出版記念フォーラム」を開催したなどが要因となつて、大きな反響を呼びました。

●小説の発刊に続き、各方面からの厚い協力を得て、アニメ作品『銘刀になった鉄之進物語』を制作するなどソフト事業を中心に顕彰活動を推進。その間にも、顕彰会主催のフォーラムや夏休み講座などはもとより、「たたら研究会・全国大会」や、米子法人会あるいは鳥取県立公文書館による「たたらフォーラム」などが連続して日野町で開催され、それに伴って発信される情報量が格段に増加。視察や取材、ツアーが急増しました。

●平成23年の年末には顕彰会が「山陰信販地域文化賞」を、松本薫著・小説『TATARA』が「鳥取県出版文化賞」を、奥日野におけるたたら研究を牽引してきた江府町の郷土史家、故影山猛さんが「鳥取県文化功労賞」を受賞。翌24年1月には平井県知事を迎え、これら3賞受賞の合

同祝賀会が盛大に開催されました。

●平成24年12月には日南町において「中国山地たたらサミットin 奥日野」を開催。今までまったく連携が取られていなかった中国地方各地のたたら関係4団体と、各方面の研究者を招へいし、2日間にわたつて情報交換と親睦を図り、サミットの最後に、参加者全員で「中国山地におけるたたら製鉄の歴史的价值を後世に伝えていくことに関する宣言（通称「奥日野宣言」）を採択しました。

●この年の6月には、来訪者の増加に対応するため「奥日野ガイド倶楽部」が設立され、また同年11月に開催した「ミニたたら製鉄操業ワークショップ」は、その後「平成のふいご祭」と名称を変えて毎年秋に、開催地を変えて行っているほか、文化庁の支援事業として郡内外のたたら跡の遺跡調査、ブログによる情報発信などを継続。今年の3月には「たたら電子紙芝居」4作品を制作し、多くの人にたたら歴史に触れられる環境を整えました。

●平成25年には「たたら楽校・根雨楽舎（日野町公舎）」が美しくリニューアルされてオープン。また10月には根雨楽舎に併設して「都合山たたら資料館」がオープンし、平成28年には日野町によって、私有地であった「都合山たたら遺跡」の土地が取得されるとともに、国の「地方創生加速化交付金事業」において「奥日野たたら里づくり戦略」都合山周辺の整備などが順次進められ、コンテンツの充実が図られています。



総務大臣表彰 受賞祝賀会后、関係者の皆さんとともに

たたら顕彰会は、日野軍★みらい創生デザイン会議（※）の主要メンバーとして、たたらに関する興味喚起や知識を広めるため「たたら学検定」を実施したり、奥日野ガイド倶楽部とも連携して「たたら古道」を復元整備するなど、新たな事業を推進しています。平成29年12月には総務大臣表彰を受賞、今年2月には日本海新聞の「ふるさと大賞」を受賞するなど、おかげさまで各方面から高くご評価をいただいておりますが、今後の活動を担う新たなメンバーを求めています。詳しくは次ページをご覧ください。

※日野軍★みらい創生デザイン会議  
日野郡内の民間団体で構成し、郡内のイベント情報を一元化して発信する「日野軍★秋の陣」などのキャンペーンのほか、郡内無人駅のパネル整備や、日野高校存続に向けて同窓会とともに「日野高校“温故創新”フェスティバル」を開催するなど、「日野郡」をひとつとして幅広い取り組みを展開中！



文＝伯耆国たたら顕彰会  
副会長 佐々木幸人

第1回 プロローグ (新連載)

「驚くべき奥日野のたたら」

たたらマイスターが、あなたを奥日野たたらの世界に引き込みます。

日野町は、山間にある細長く山が多く農耕地の少ない町です。それでも、古くからの歴史があり文化の進んだ地域だったと言われます。

それでは日野町はなぜそのように昔から栄えていたのでしょうか。その一つの答えは、「たたら」が行われ地域に富をもたらした、多くの人を養ったからです。私が子どものころにはすでにたたらは行われていなかったため、たたらというものが何なのか、私は最近まで知りませんでした。

しかし、2010年に伯耆国たたら顕彰会が発足し、私もたたら歴史調査に協力するようになってから、驚くべき歴史がこの地方に眠っていることによく気が付きました。むしろ私がたたらを知らなかったために、新鮮な目で調査をすることが出来たのか

もしれません。

その歴史の例をひもといてみると、出雲神話に出てくるヤマタノオロチ伝説は、船通山にいた製鉄をする豪族を出雲のスサノヲの一族が襲い天叢雲剣(アメノムラクモノツルギ)などの鉄を略奪した話であったとする学説があります(町図書館蔵、藤原よしえ著『抹殺された出雲古代王朝』ほか)。

平安時代の延喜式という書物には、伯耆の特産品が鉄であり、鉄を都に納税していたと書かれています。ほかにも上菅にある日本の刀鍛冶の伝説や、金持神社の由来、黒坂にあった「鉄山要口訳」という鉄づくりの秘伝を書いた古文書のことなど、調べるほど面白い話が出てきます。

これが私たちの住む日野町の話なのかと、私は目を見張り誇らしく思うようになりまして。そしてこの話を裏付けるように2008年には都合山たたら遺跡調査があり、その後の足掛け10年に及ぶたたら顕彰会の藤原洋一氏による調査では、日野町の製鉄関連遺跡は125を数えることがわかってきました(日南町は250)。

皆さんのまわりには当たり前のように「カナクソ」と呼ばれる黒い鉱物が転がっています。しかし、米子あたりの人はカナクソを見たことがないとおっしゃいます。カナクソはこの町が日本の鉄を作ってきた長い歴史のある町であった証拠です。これから、皆さんにもかつて日野町にあった、たたら歴史を知っていただくために、いろいろなお話をコラム連載させていただきます。

## 直近のイベント情報

### 伯耆国“安綱”サミット(仮)を開催予定!

現代に伝わる銘刀、国宝・童子切や重要文化財・鬼切の作者、伯耆(大原)安綱。平安時代の名刀工、安綱に縁あるとされる4つの地域、奥日野(下阿毘縁と上菅)、伯耆町八郷、米子市日下、倉吉市大原…、それぞれの伝承などを披歴し合う初めての試みです。

日程 8月19日(予定) / 場所 米子市立図書館2階  
主催 伯耆国たたら顕彰会

## たたら INFORMATION

### たたら電子紙芝居、ぜひご覧ください!

この度、「伯耆安綱伝」「喜八郎の決断」「たたら場のお引越し」「伯耆国の流通革命」の電子紙芝居(動画)4作品ができました。YouTubeで上記タイトルを検索して視聴できるほか、町図書館でDVDの貸し出しも行っていきます。



**会員募集中!** 顕彰会では常時、新会員を募集しています。Eメールなどで情報を共有しながら、それぞれ、無理のないよう活動に参加いただけます。

### 伯耆国たたら顕彰会関係Webサイト

たたらの里 奥日野 <http://tatara21.com/>  
たたらの里 奥日野 Blog <http://blog.tatara21.com/>

### “たたら”の話、しませんか?

「たたら」の話しがしたい、聞きたい」という集落や団体などありましたら、気軽にお声かけください。日程などご相談の上、顕彰会から資料などを持って伺います!

### たたら楽校・根雨楽舎

大鉄山師・近藤家の「たたら経営」をテーマに展示され、「都合山たたら資料館」を併設しています。

開館時間 4月～11月の土日、午前10時～午後4時  
※平日の来校希望も出来るだけ対応します。ご相談ください。

### 伯耆国たたら顕彰会 問合せ先

事務局/日野町根雨 341-2 日野町商工会内  
電話/090-5372-5586(事務局長 藤原)